

日本社会心理学会
公開シンポジウム
2010.6.19

CSRの研究動向と企業の取組み

麗澤大学企業倫理研究センター
特任研究員 寺本佳苗

報告の内容

1. CSRが求められる理論的根拠
2. CSRとは
3. 問題把握時の情報公開
4. 今後の研究課題

2010/6/28 「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗 2

1. CSRが求められる理論的根拠

-CSRは所有者である株主の権利と矛盾するか?

2010/6/28 「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗 3

株式会社制度の成立

- 16世紀の事業形態
 - 「投資家・事業家」は無**限**責任
 - 事業は当座的活動
- 17世紀の事業形態
 - 「投資家・事業家」は**有**限責任・危険分散
 - 事業は永続的活動

2010/6/28 「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗 4

「法人」という概念の考案

- ビジネスがうまくいかなかった際・・・
 - 「投資家・事業家」と「船員・管理者」は責任を各々に回避しようとする

↓

- 彼らの責任を「**法人**」に**転嫁**する

↓

- 権利義務能力がある法人は、自然人と同じような責任を負う

2010/6/28 「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗 5

「所有」の概念

- 所有概念を構成する第三者
 - 「その他の人々」に対する影響や責任を考慮しない場合は完全に自由な所有はない(チョーデリー)
 - ある人があるものを所有することで、他に直接的・間接的に負の影響が出る場合、所有は制限される(ノージック)

↓

- 所有は「**その他の人々**」に対する**責任**を伴う

2010/6/28 「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗 6

法人と株主(所有者)の責任

- 法人の責任
 - 自然人と同じような責任を負う
 - 株主(所有者)の責任
 - 第三者(その他の人々)に対する責任を伴う
 - ただし、株主は有限責任
- ↓
- 法人 株主から転嫁された責任を負う
 - 株主 所有者としてステークホルダーに責任を負う

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

7

2.CSRとは -定義と活動のフェイズ

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

8

CSRの定義

- 欧州委員会(2002)
 - CSRとは責任ある行動が持続可能なビジネスの成功につながるという認識を企業が持ち、企業が社会や環境に関する問題意識を、その事業活動やステークホルダーとの関係の中に自主的に組み込んでいくこと
- 社会の持続可能性を実現するための企業の自主的な取組み

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

9

CSR研究分野の多様化

- ガバナンス
- 調達
- ディスクロージャー(財務・非財務の統合)
- ステークホルダーコミュニケーション
- 投資(SRI,PRI)
- 生物多様性
- BOPビジネス

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

10

CSRのフェイズ

	内部統制	フェイズ2 ~倫理実践	フェイズ3 ~社会貢献
主体的		正しいことを行う 正直である 公正である 法の精神を実践する	他を助ける 地域社会をより良いものにする 人間の尊厳を促進する 勇気をもって取り組む
基礎的		フェイズ1 ~狭義の法令遵守	フェイズ2 ~倫理実践
		悪事避ける 詐欺的ではない 盗んではない 法令の文言を遵守する	他を傷つけない 地域社会に害を与えない 人権を尊重する よく配慮する
		組織内部の取組み	環境配慮 品質改善 組織外部への取組み

注: 網掛けの部分は結果報告が合理的、その他の部分はプロセス報告が合理的。
出典: 高嶺+日経CSRプロジェクト編「CSR企業価値をどう高めるか」日本経済新聞社、p.38、一部修正。(L.S.Paine, Value Shift, p.68の図を元に作成された)

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

11

3. 問題把握時の情報公開

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

12

問題を把握した際の対応

会社名	問題発生原因	情報公開	概要
★ニチアス	組織内部	非自発的	耐火性能偽装
★日本ハム	組織内部	自発的	未承認ワクチン使用
参天製薬	組織外部	自発的	眼薬異物混入
★ニチレイ	組織外部	自発的	冷凍いんげん毒物混入
★花王	組織外部	自発的	食用油エコナの安全性に疑い

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

13

ニチアス(耐火性能偽装)

- 内容
 - 耐火性能の認定取得の不正受験
- 経緯
 - 2000 耐火性能試験の開始
 - 2001 耐火性能試験の不正受験
 - 2006/10 社内調査で不正の把握
 - 2007/10/16 匿名の内部告発
 - 2007/10/17 偽装行為の公表

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

14

日本ハム(未承認ワクチン)

- 内容
 - 養豚事業で国内未承認ワクチン使用
- 経緯
 - 2003/11月上旬 社外相談窓口
 - 11/11~12/21 社内調査チームの立ち上げ
ヒアリング等の実施
第三者(弁護士)の調査
 - 12/24 ニュースリリース配信

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

15

ニチレイ(冷凍インゲン)

- 内容
 - 中国産冷凍インゲンから殺虫剤検出
- 経緯
 - 2008/10/11 消費者が商品購入
 - 10/12 調理・喫食し痺れなどの症状
 - 10/13 当該製品の調査開始
 - 10/14 検査結果の連絡
 - 10/15 商品回収、プレスリリース

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

16

情報公開の方法とその効果

- 情報の公開方法
 - 自主的な情報公開
 - 説明する準備
 - 事実関係の整理
 - 仕事の流れの把握
- 対応がもたらす効果
 - 社外に向けて 会社の姿勢を示す
 - 社内に向けて 従業員への教育効果

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

17

4. 今後の研究課題

- 社会貢献に資する取組みの情報公開

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

18

花王(エコナ)

- 内容
 - 食用油エコナに発がん性に変わる可能性がある物質の含有
- 経緯
 - 2009/9/16 エコナ出荷一時停止
 - 2009/9/29 消費者庁
「食品SOS対応プロジェクト」立ち上げ
 - 2009/10/7 内閣府 消費者委員会
同プロジェクトから報告を受け議論
 - 2009/10/8 エコナ特保の失効届け

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

19

情報公開の方法

- 問題を把握
 - 自主的に公表
 - 製品の回収
- 花王を評価する主体
 - 行政、マスコミ、NPO/NGO、消費者団体、消費者等、評価主体の多様化
 - 世論の評価がどちらに転ぶかわからない

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

20

社会貢献に資する取組みの情報公開

- 社会貢献(フェイズ3)に該当するような商品
 - コーズ・マーケティング
 - アメリカン・エクスプレス
 - ボルヴィック
 - アサヒビール
- 評価主体が厳しい判断をする可能性
- 適切な情報開示が必要

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

21

主な参考文献および資料

- 足立義雄・井上千一編(2009)『CSR経営の理論と実践』中央経済社。
- 梅津亮弘(2002)『ビジネスの倫理学』丸善。
- 大塚久雄(1999)『大塚久雄著作集 第一巻 株式会社発生史論』岩波書店。
- 岡本孝二(2008)『進化するCSR』JPM/リサーチ・イン・アクション。
- 岡本大輔・梅津亮弘(2006)『企業評価+企業倫理』慶応義塾大学出版会。
- 安田太郎(2007)『専門職と企業倫理』社会と倫理』Vol.21, pp.129-141。
- 株式会社CSR経営研究所「これからのCSR2009」。
- 河口真穂子(2005)『CSRとステークホルダーコミュニケーション』大和総研経営戦略研究』Vol.3, pp.20-41。
- 櫻井亮彦(2006)『現代企業の社会的責任』有斐閣。
- 新日本有責任監査法人「CSRはどのように報告されているか」。
- スチュアート・レバート著、谷原重訳(2008)『未来をつくる資本主義：世界の難問をビジネスは解決できるか』英治出版。
- 高橋トオル(2009)『ビジネス・エッセンス』文芸春秋。
- 高橋トオル(2003)『企業の社会的責任』日本経済新聞社。
- 高橋トオル(2003)『企業の社会的責任』日本経済新聞社。
- 高田順(1989)『経営の倫理と責任』千倉書房。
- 谷本憲治(2003)『SR:社会的責任投資入門』日本経済新聞社。
- 藤井孝孝・梅村みづえ(2006)『グローバルCSR』日科社出版。
- C.K.プラハラド著、スライトコンサルティング訳(2005)『ネットワーク・マーケット：「貧困層」を「顧客」に変える次世代ビジネス戦略』英治出版。
- 松野弘・堀尾芳樹・谷村和生編(2006)『企業の社会的責任論』の形成と展開』ミネルヴァ書房。
- 鈴木三男(1984)『企業社会責任の経営学的研究』日経書房。
- Carroll, A. B., (1996), "Business & Society: Ethics and Stakeholder Management 3rd Edition," South-Western College.
- Michaelson, C., (2010), "Rewriting the Global Business Ethics Question," Business Ethics Quarterly, Vol.20, No.2, pp.237-251.
- Paine, L. S., (2003), "Value-Based: Why Companies Must Merge Social and Financial Imperatives to Achieve Superior Performance," McGraw-Hill.
- Waddock, S., and McIntosh, M., (2009), "Beyond Corporate Responsibility: Implications for Management Development," Business and Society Review, Vol.114, No.3, pp.285-325.
- Wettstein, F., (2009), "Beyond Voluntariness, Beyond CSR: Making a Case for Human Rights and Justice," Business and Society Review, Vol.114, No.1, pp.125-152.

2010/6/28

「CSRの研究動向と企業の取組み」寺本佳苗

22